

産学官の共同研究の件数

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 2 経済・産業
- 中項目(政策の柱) (4) 新たな成長産業への挑戦や研究開発の推進
- 小項目(政策の方向性) ■ 本道の活性化に役立つ科学技術の振興

【何を測る指標か】

新技術・新製品の創出といった地域産業の発展につながる大学等の創造的な研究の状況を測る指標

【定義・算出式】

道内の大学等(国・公・私立大学、短大、高専等)及び道立試験研究機関(地方独立行政法人北海道立総合研究機構を含む)等における共同研究の件数

【出典】

北海道経済部調べ、毎年調査、概ね6月確定

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値
平成26年度(2014年度) 1,135件

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 1,700件

<目標値設定の考え方>

産学官の共同研究は経済や産業の成長に拠るものであることから、産学官金等の協働や研究開発拠点の形成を促進することなどにより、内閣府の「中長期の経済財政に関する試算」(平成30年(2018年)1月)の実質成長率により増加することをめざし、目標値を設定

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値
令和元年度(2019年度) 1,551件

<達成度合の分析>

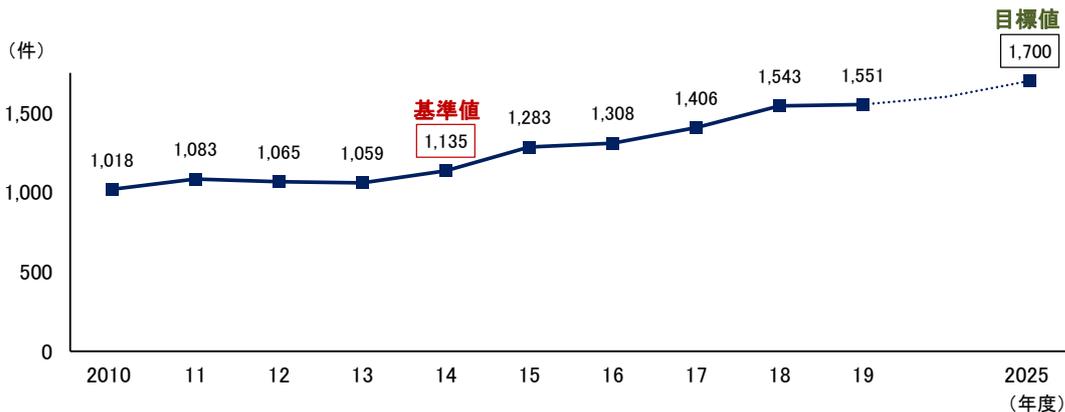
機運の醸成に伴い、産学官の連携が進んできた。

●データ

産学官の共同研究の件数の推移

(単位: 件)

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
件数	1,018	1,083	1,065	1,059	1,135	1,283	1,308	1,406	1,543	1,551
					基準値					実績値



道産食品輸出額

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 2 経済・産業
- 中項目(政策の柱) (5) 海外の成長力を取り込んだ経済の持続的発展
- 小項目(政策の方向性) ■アジアなど海外への北海道産食品の輸出拡大

【何を測る指標か】

道産食品の海外取引の規模を測る指標

【定義・算出式】

〈道内港分〉

道内港(港湾、空港)で通関し、直接海外へ輸出された道産食品の輸出額
函館税関が毎年公表する貿易統計のうち、人の食用に供するもの(水産物、農畜産物、加工食品、飲料等)を集計し、道産食品の輸出額としている。

〈道外港分〉

道外港(港湾、空港)で通関し、海外へ輸出された道産食品の輸出額
生産者団体、商社、企業等へのヒアリング調査や各種統計資料等を参考に、人の食用に供するもの(水産物、農畜産物、加工食品、飲料等)を推計し、道産食品の輸出額としている。

【出典】

財務省函館税関「貿易統計」、農林水産省「漁業・養殖業生産統計」、「北海道水産現勢」などを参考に北海道で独自集計。

道内港からの輸出実績額については、前年実績を毎年4月頃公表。

道外港からの輸出推計値については、前々年実績を毎年4月頃公表。

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

平成26年(2014年) 663億円

【②目標値】

目標年: 令和7年(2025年) 目標値: 1,500億円以上

〈目標値設定の考え方〉

北海道食の輸出拡大戦略で平成30年(2018年)の目標としている1,000億円については、関係者との連携のもと輸出拡大に向けた集中的な取組を推進することによって、毎年85億円(平成26年(2014年)の対前年増加額)と同程度の高い伸びを達成することを目標としている。

令和元年(2019年)以降については、各種計画やこれまでの輸出実績を参考にした輸出量・輸出額の伸びなどを考慮し、令和5年(2023年)までに道内港と道外港を合わせた道産食品の輸出額1,500億円の目標値を設定している。

令和6年(2024年)以降は、1,500億円以上の輸出額を目指す。

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値

平成30年(2018年) 道内港(実績)774億円、道外港(推計)408億円 合計1,182億円

〈達成度合の分析〉

平成30年(2018年)の道産食品の輸出額は1,182億円であり、過去10年間で約2.3倍の増加となっており、全体として概ね順調に推移している。

●データ

道産食品輸出額の推移(道内港分)

(単位: 億円)

年	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
食品輸出額	262	331	369	332	359	576	663	773	702	674	774
※確定値							基準値				実績値



※道外港からの道産食品輸出額については、平成28年(2016年)分から推計値として調査・公表している。

輸出額

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 2 経済・産業
- 中項目(政策の柱) (5) 海外の成長力を取り込んだ経済の持続的発展
- 小項目(政策の方向性) ■ 海外展開によるビジネス創出と海外からの投資の促進

【何を測る指標か】

生産・加工・流通における海外取引の規模を測る指標

【定義・算出式】

本道から函館税関を通じ、直接海外へ輸出された通関額

【出典】

函館税関「北海道貿易概況」、毎年調査、3月頃公表

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値
平成26年(2014年) 4,787億円

【②目標値】

目標年: 令和7年(2025年) 目標値: 7,250億円

<目標値設定の考え方>

地域の海外展開力や企業の海外競争力の強化等により、地方創生総合戦略の目標値である5,000億円(平成28年(2016年))について、毎年約5%(250億円)増加させることをめざし、目標値を設定

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値

令和元年(2019年) 3,121億円

<達成度合の分析>

道内港からの総輸出額は、平成21年(2009年)のリーマンショックの後は6年連続で増加したが、平成28年(2016年)には不漁の影響によるホタテ貝の減少や、堅調な建設・製造業の国内需要向けの優先による輸出向け鉄鋼の減少、北米向け自動車部品の減少などにより前年比25%減となった。

その後、北米での現地生産の進展による自動車部品の減少や石油製品加工企業の撤退による化学製品の減少などがあり、基準年である平成26年(2014年)の水準まで回復していない。

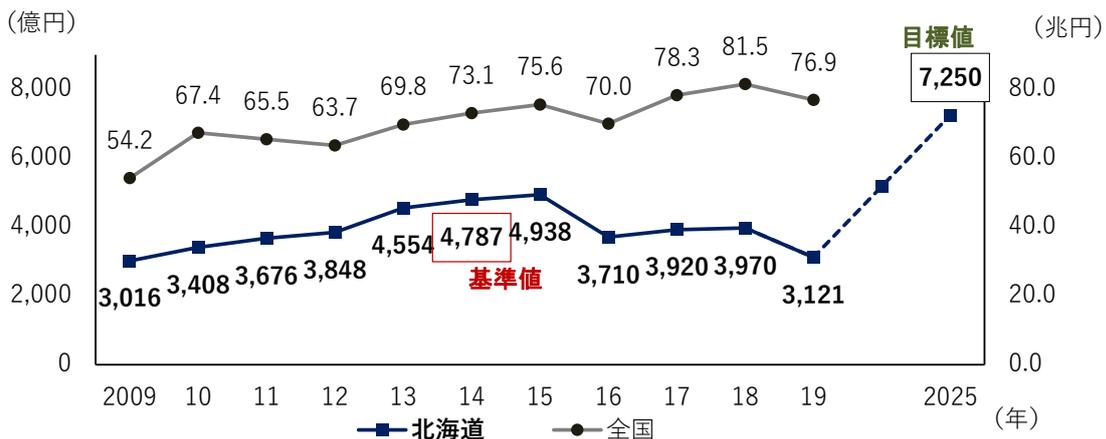
●データ

(単位: (北海道)億円、(全国)兆円)

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
北海道	3,016	3,408	3,676	3,848	4,554	4,787	4,938	3,710	3,920	3,970	3,121
全国	54.2	67.4	65.5	63.7	69.8	73.1	75.6	70.0	78.3	81.5	76.9

基準値

実績値



観光消費額

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 2 経済・産業
- 中項目(政策の柱) (6) 多彩な地域資源を活かした世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進
- 小項目(政策の方向性) ■食や自然環境など豊富な資源を活かした滞在交流型の観光地づくり

【何を測る指標か】

旅行目的や旅行形態の多様化・個性化に対応した質の高い観光地づくりの状況を測る指標

【定義・算出式】

道内、国内、海外からの観光客が道内での観光1回に消費した平均額(1人当たり)

【出典】

北海道観光産業経済効果調査委員会「北海道観光産業経済効果調査」、概ね5年ごとに調査
北海道観光振興機構「北海道来訪者満足度調査報告書」

●指標の達成状況

【①現状値】 ※「現状値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値

平成22年	道内客1人当たり	13,271円
(2010年)	道外客1人当たり	69,670円
	外国人1人当たり	122,128円

【②目標値】

目標年:	目標値:	
令和7年	道内客1人当たり	15,000円
(2025年)	道外客1人当たり	79,000円
	外国人1人当たり	209,000円

<目標値設定の考え方>

道内各地の取組と一体となった多彩なツーリズムを展開し、滞在消費の拡大につなげる観点から、国内客については内閣府の「中長期の経済財政に関する試算」(平成27年7月)の実質成長率による増加をめざし、外国人観光客については訪日外国人消費動向調査(観光庁調査)の旅行支出総額の過去5年間平均増加率での増加をめざし、目標値を設定

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値

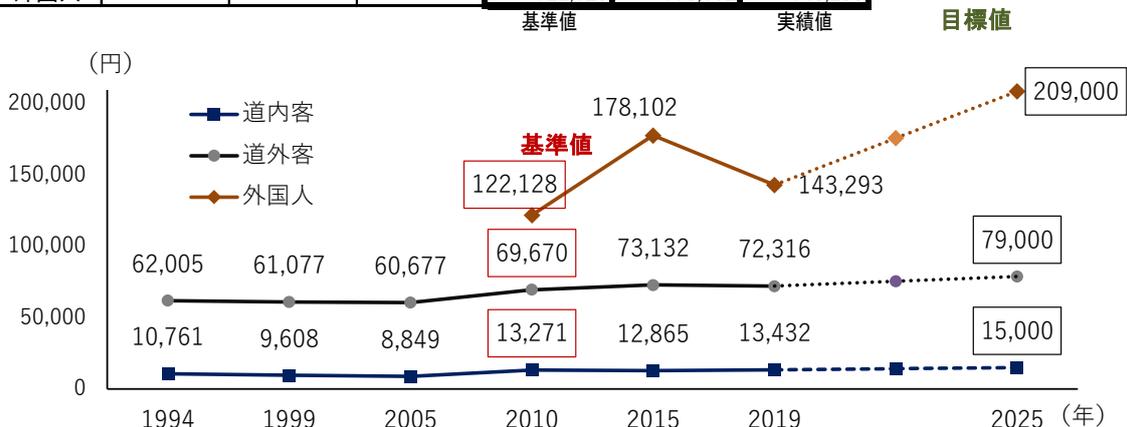
令和元年	道内客1人当たり	13,432円
(2019年)	道外客1人当たり	72,316円
	外国人1人当たり	143,293円

<達成度合の分析>

- ・魅力ある観光地づくりなど消費額増加のための取組の成果が現れていると考えられる。(道内)
- ・前回調査時(H27)から微減となったが達成率は96.1%と順調に推移している。(道外)
- ・前回調査時(H27)から減少しているが、中国人観光客による爆買いが落ち着いたことなどが一要因であると考えられる。(海外)

●データ

年	1994	1999	2005	2010	2015	2019
道内客	10,761	9,608	8,849	13,271	12,865	13,432
道外客	62,005	61,077	60,677	69,670	73,132	72,316
外国人				122,128	178,102	143,293



国際会議等の開催状況

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 2 経済・産業
- 中項目(政策の柱) (6) 多彩な地域資源を活かした世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進
- 小項目(政策の方向性) ■国内外への効果的な誘客活動による旅行市場の拡大

【何を測る指標か】

道内で開催された国際会議など、MICE誘致・開催の推進状況を測る指標

【定義・算出式】

道内で開催された国際会議の開催件数です。日本政府観光局(JNTO)が関係府省庁、自治体、各種団体、大学、研究機関等の協力を得て、次の基準により集計したものの
 ・主催者:「国際機関・国際団体(各国支部を含む)」又は「国家機関・国内団体」(各々の定義が明確ではないため、「特定企業の利益を追求することを目的とした会議」の主催者を除く全てが対象)
 ・参加者総数:50名以上
 ・参加国:日本を含む3カ国以上
 ・開催期間:1日以上

【出典】

日本政府観光局(JNTO)「国際会議統計」、毎年調査、概ね11月公表

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値
 平成26年(2014年) 107件

【②目標値】

目標年:令和7年(2025年) 目標値:140件

<目標値設定の考え方>

札幌市の目標は「札幌MICE総合戦略」において令和2年(2020年)で120件となっているが、地域の関係者と連携し官民一体となった戦略的なMICE誘致・開催を推進することにより、札幌市以外での開催を平成20年(2008年)～平成26年(2014年)平均(8.7件)の2倍程度に増加させることをめざし、目標値を設定

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値

平成30年(2018年) 116件

<達成度合の分析>

【内的要因】

「北海道MICE誘致推進協議会」への参画をはじめ、構成団体と連携して省庁訪問を行うなど、効率的な国際会議の誘致を行った結果、概ね順調な成果が表れている。

【外的要因】

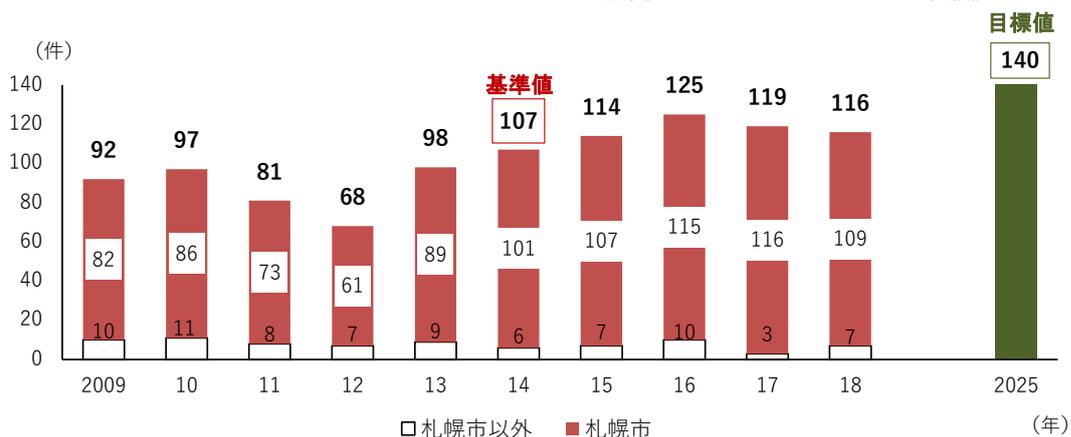
特になし

●データ

年	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
北海道内合計	92	97	81	68	98	107	114	125	119	116
札幌市	82	86	73	61	89	101	107	115	116	109
札幌市以外	10	11	8	7	9	6	7	10	3	7

(単位:件)

基準値 実績値



道外からの観光入込客数

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 2 経済・産業
- 中項目(政策の柱) (6) 多彩な地域資源を活かした世界が憧れる観光立国北海道の更なる推進
- 小項目(政策の方向性) ■国内外への効果的な誘客活動による旅行市場の拡大

【何を測る指標か】

国内外への本道の魅力の発信や戦略的な誘客活動による成果を測る指標

【定義・算出式】

道外から本道を訪れた観光客(国内及び外国人)の実人数

【出典】

北海道経済部「北海道観光入込客数調査」、毎年調査、概ね9月公表

●指標の達成状況

【①基準値】※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値
平成26年度(2014年度) 723万人(うち外国人154万人)

【②目標値】

目標年: 令和7年度(2025年度) 目標値: 1,150万人(うち外国人500万人以上)

<目標値設定の考え方>

アジアをはじめとする海外の旅行市場の拡大などにより外国人来道者数は年々増加しているが、国内道外客は近年540万~590万人程度で推移しており、今後の人口減少・少子高齢化の進展による国内旅行市場の更なる縮小が懸念されることなどから、観光のくにつくり行動計画(平成30年度~32年度)では道外観光客及び外国人観光客の目標値を設定しており、これを踏まえて総合計画では、道外からの観光客数(外国人含む)1,150万人をめざすこととし、目標値として設定している。

【③実績値】※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値

平成30年度(2018年度) 919万人(うち外国人312万人)

<達成度合の分析>

地域や観光関係者と連携して実施してきたプロモーションなどの効果が現れていると考えられる。胆振東部地震による影響があったものの、目標達成に向け、順調に推移していると考えられる。

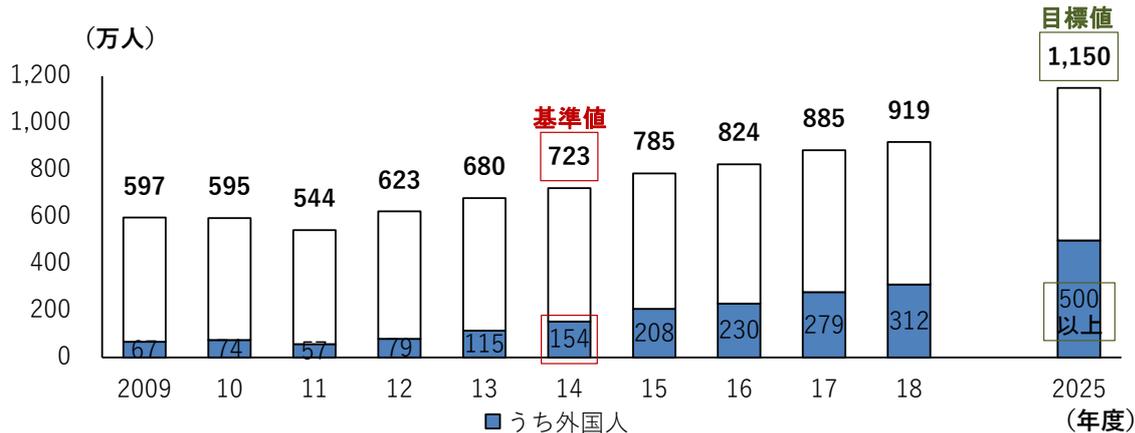
●データ

(単位: 万人)

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
道外客	597	595	544	623	680	723	785	824	885	919
うち外国人	67	74	57	79	115	154	208	230	279	312

基準値

実績値



就業率

●指標の説明

【対応する政策】

- 大項目(分野) 2 経済・産業
- 中項目(政策の柱) (7) 良質で安定的な雇用の場づくりと産業人材の育成・確保
- 小項目(政策の方向性) ■雇用の受け皿づくりと産業人材の育成・確保

【何を測る指標か】

北海道全体の雇用・就業実態を測る指標

【定義・算出式】

15歳以上の人口のうち、仕事に就いている人の割合をいう。
 (算出式) 就業率 = 就業者人口 / 15歳以上の人口 × 100
 ・15歳以上の人口は、調査月末現在の満年齢

【出典】

総務省「労働力調査」、毎年調査、1月公表

●指標の達成状況

【①基準値】 ※「基準値」は北海道総合計画策定時点での最新の統計数値
 平成26年(2014年) 53.1%(全国平均値57.3%)

【②目標値】

目標年: 令和7年(2025年) 目標値: 全国平均値

<目標値設定の考え方>

道内の雇用情勢は全国平均を下回る厳しい状況が続いていることから、良質で安定的な雇用の場づくりを進めることなどにより、全国平均値とすることを目標としている。

【③実績値】 ※「実績値」は令和2年(2020年)8月1日時点での最新の統計数値
 令和元年(2019年) 56.7% (全国平均値60.6%)

<達成度合の分析>

地域活性化雇用創造プロジェクト事業の展開などにより、全国との差は縮小。

●データ

(単位: %)

年	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
北海道	53.8	53.3	53.0	53.0	53.1	53.6	54.0	54.4	55.9	56.7
全国	56.6	56.5	56.5	56.9	57.3	57.6	58.1	58.8	60.0	60.6

基準値 実績値

